

宅建業法主管課のコーナー

静岡県 暮らし・環境部建築住宅局 住まいづくり課宅地建物班

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6

TEL 054-221-3077 FAX 054-221-3083

静岡県庁ホームページ <http://www.pref.shizuoka.jp>

○住まいづくり課の紹介

当課は、予算経理等を行う総務班、豊かな暮らし空間創生等の住宅政策を行う計画班、宅地建物取引業法を所管する宅地建物班で構成され、その他、住宅供給公社を所管し、総合的に住宅政策を行っています。

宅地建物取引業法の免許申請の受付は、県内8箇所の土木事務所で行っており、本庁では全体の総括とともに事務所から進達される申請の処理、大臣免許への対応や国・関係団体等との調整を行っています。

県内の宅建業者は約3300業者で、これを4名の班員で対応していますが、それ以外にも宅地建物班は建築士法、浄化槽法などを所管しており、最近の法令改正により建築士法の業務が増加している中、他法令の業務との兼ね合いにも気を配りつつ、業務を行っています。

○静岡県の事業紹介

◆3つの「住みかえる」の提案

静岡県では、首都圏からの新しい人の流れをつくり、静岡県への移住を促進することによる地域の持続的な発展を目指し、平成27年度から「ふじのくにに住みかえる事業」をスタートさせました。

「住み帰る／住み替える／^{すみか}栖得る」の3つの切り口から、静岡県の暮らしの魅力を発信するとともに、市町や関係団体等と連携し、生活環境、就業環境、子育て環境などの暮らし

の魅力を高め、「この地で暮らしていきたい」と実感できる環境づくりに取り組んでいます。

その一つとして、平成27年4月22日（水）に東京・有楽町にある「NPO法人ふるさと回帰支援センター（東京交通会館5階）」内に、「ふじのくにに住みかえる」静岡県移住相談センターを新たに開設しました。相談センターには、静岡県で出産・子育て経験のある相談員を配置し、開設から1ヶ月で約30件の移住相談が寄せられています。

今後は、地方への移住を検討している首都圏在住者からの相談にワンストップで対応できるよう、情報の収集・蓄積を図ります。また、多種多様な要望をていねいに聞き取りながら、市町や関係団体等と緊密に連携し、移住者と受入地域の双方にとってより良い移住の実現を目指します。



◎静岡県移住相談センターでの相談風景

宅建業法主管課のコーナー

大阪府 住宅まちづくり部建築振興課

〒559-8555 大阪市住之江区南港北1丁目14番16号

TEL 06-6210-9734 FAX 06-6210-9731

大阪府庁ホームページ <http://www.pref.osaka.lg.jp/>

○当課の紹介

当課は、主に宅地建物取引業法を所管する宅建業免許グループ及び宅建業指導グループ、主に建設業法を所管する建設業許可グループ及び建設指導グループの4グループで構成されており、32名の課員が在籍しています。

宅建業については、宅建業免許グループ及び宅建業指導グループにおいて、府内全域に係る免許等の申請や届出、指導監督業務を行っています。なお、申請・届出や閲覧業務等の窓口業務は民間業者に委託しています。

大阪府における宅建業者数は大阪府知事免許の業者が約12,000業者、大阪府に本店を置く大臣免許業者が約300業者、宅地建物取引士の登録者数が約90,000人で、いずれも東京都に次いで2番目の数となっています。

大阪府では、宅建業法に対する理解を深めていただくため、新規免許業者や供託業者に対して年2回研修会を開催しています。また、業界団体で構成する「不動産に関する人権問題連絡会」と連携し、宅地建物取引業人権推進指導員制度（平成18年度創設）を活用した研修会の開催など、宅建業者の人権意識の高揚に努めています。

一方、消費者の方々に対しては、不動産取引知識の啓発の一環として、小冊子「マイホーム購入のためのちょっとアドバイス」及び「賃貸借契約のためのちょっとアドバイス」を作成配布し、紛争の事前防止に努めています。

○大阪府の紹介

大阪といえば、「食」ではお好み焼き、たこ焼きなどの粉もん、「観光ポイント」では、通天閣、大阪城、USJなどが有名ですが、これら以外にも現在、世界文化遺産登録を目指している「百舌鳥・古市古墳群」（世界最大級の仁徳天皇陵古墳を有する巨大古墳群）や現存する最古の企業「金剛組」が建設した「四天王寺」など魅力的なスポットがたくさんあります。

これら大阪府の魅力をお伝えするため、「もずやん」が広報担当副知事として、イベント等への出演やツイッターでの情報発信を行っています。

また、今年は新たな大阪のまちづくりの契機となった大坂の陣、道頓堀川開削から400年など、さまざまな節目が重なる年であることから、大阪の都市魅力を発信するシンボルイヤーとして、「大坂の陣400年天下一祭」や「水都大阪2015」と銘打った様々なイベント等を開催しています。



大阪府広報担当副知事